



十代
十一

遠
2378
29

山東京山作



あづま
吾妻

あさひぐし さとれ あけの
朝日櫛廓曙 全六冊

よこらう
與五郎

勝川春亭画 雙鶴堂版



幸^{あき}の歳之花^{はな}あや先^{まへ}かき^{かき}の^の似^にら^らり^りと^と繪^え日^ひ及^及の
乃^な趣^す向^むも^もつ^つて^てえ^えま^ま打^{うち}む^むを^を作^して^ては^はほ^ほと^とな^な彩^{いろ}編^あハ^ハ名^なを^をう^う
か^から^らし^し吾^あ妻^づあ^あと^と五^ご郎^{らう}居^いづ^づけ^けの^の布^ぬを^を目^め耳^{みみ}と^とし^して^て
右^{みぎ}を^を帝^{てい}一^{いつ}か^かき^きつ^つけ^けら^ら革^{くわ}下^げに^にさ^さら^らる^るむ^むさ^さぶ^ぶの^のか^かを^をと^とま^ま
つ^つら^らる^る朝^{あさ}日^ひ櫛^{くし}乃^な因^{いん}縁^{えん}を^をち^ちり^りあ^あら^らと^とひ^ひら^らて^てえ^え
南^{なん}枝^えの^の花^{はな}あ^あ玉^{たま}の^の色^{いろ}伽^が藍^{らん}の^の法^{はふ}子^し様^{やう}の^の法^{はふ}
ひ^ひら^らた^たん^んひ^ひと^とえ^えな^なぬ^ぬひ^ひを^をさ^さふ^ふな^なん

此^こと^とえ^える^る一^{いつ}す^すは^はひ^ひら^らる^る仕^しゆ^ゆ去^こ年^{ねん} 亦^{また}国^{くに}を^を遊^{あそ}び^び山^{さん}東^{とう}京^{きやう}山^{さん}と^と名^な
の^のと^と遊^{あそ}び^び處^{ところ}に^にい^いる^る人^{ひと}あ^あら^らる^るは^はし^しみ^みや^やら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^も
つ^つげ^げを^をう^うや^やり^り水^{みづ}滸^{へん}傳^{でん}乃^な黒^{くろ}旋^{せん}風^{ふう}の^のあ^あら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^も
ま^まい^いる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^もあ^あら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^もあ^あら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^も
革^{くわ}下^げの^のつ^つら^らる^る人^{ひと}も^もあ^あら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^もあ^あら^らる^るに^にい^いる^る人^{ひと}も^も

甲戌霜月の吉 山東京山識





ぬいの位む
池との見えト
かきろろと
東里山人

ハヤ 喜 六 半 氣 動 主 秩
機 女 月 沢 臣 の 忠 司 父



貴妃様
うろくうらや
化糺の間
東西菴
南北
山崎
与二兵衛
一子
与五郎

神崎のけいせいの
吾妻





ちのひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち

あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち



あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち

あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち
あひまをあらはせしむるはなごころちのち

文 化 二 十 乙 亥 新 稗 史 目 録

あまをゆく...
 今ある...
 あまをゆく...
 今ある...
 あまをゆく...
 今ある...
 あまをゆく...
 今ある...



山 東 京 山 作

勝 川 春 亭 画

新板 踊獨枕古初編 全二冊
 即興 萬飾北齋著 後編近刻

略画早指南 初編二編三編各一冊
 萬飾北齋著

大千世界樂屋探初編
 式亭三馬作 歌川豊国画

狂言田舎操初編全冊
 式亭三馬合作 歌川豊国画

田舎芝居忠臣藏二編全冊
 式亭三馬作 歌川豊国画

道中膝栗毛 自發端初編
 續六編今年出版

勝川春亭の土画ハ形而ハ...
 勝川春亭の土画ハ形而ハ...
 勝川春亭の土画ハ形而ハ...

万物の坑を...
 冊多あり大率五...
 冊多あり大率五...
 冊多あり大率五...

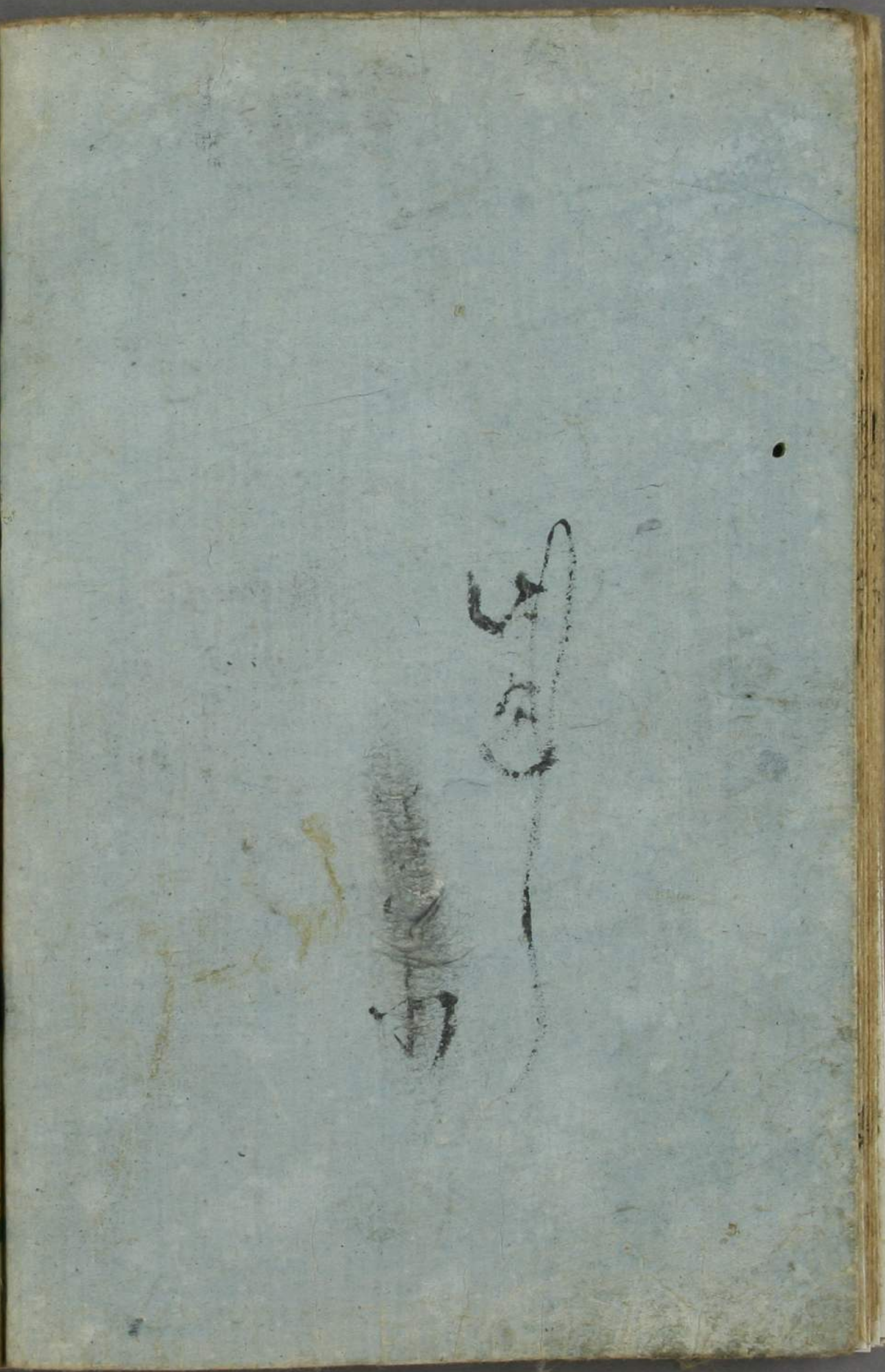
癡所謂 四十八癡三編全一冊
 式亭三馬作 歌川豊国画

方言競茶番種本全冊
 式亭三馬作 歌川豊国画



京山作
春亭画

まの
ふ



Handwritten text in the center of the blank page, possibly a signature or a collector's mark, written vertically.

こゝにきてゐる中ではけしき
 一すもゝらざりぬをいふ
 けしきもあらぬをいふ
 あつちの村にすすむ
 わらふおせんぎのむね
 むねはくつてゐる
 村あささへ入らぬが
 ぞつて入らぬ
 身どもがらぬ
 由く中のぞつてゐる
 かいといひさして
 けしきをいふ
 よも九つとある
 中だつたか
 さつていふ
 うらむ
 よのむねをいふ
 たらひのむねをいふ
 それとつた
 さつていふ
 みつたか
 ようでつた
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ



コノヤ
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり

「吹へて
 けしき
 つたか
 ようで
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ
 うらむ
 よのむね
 たらひ
 それと
 さつて
 みつた
 ようで
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ

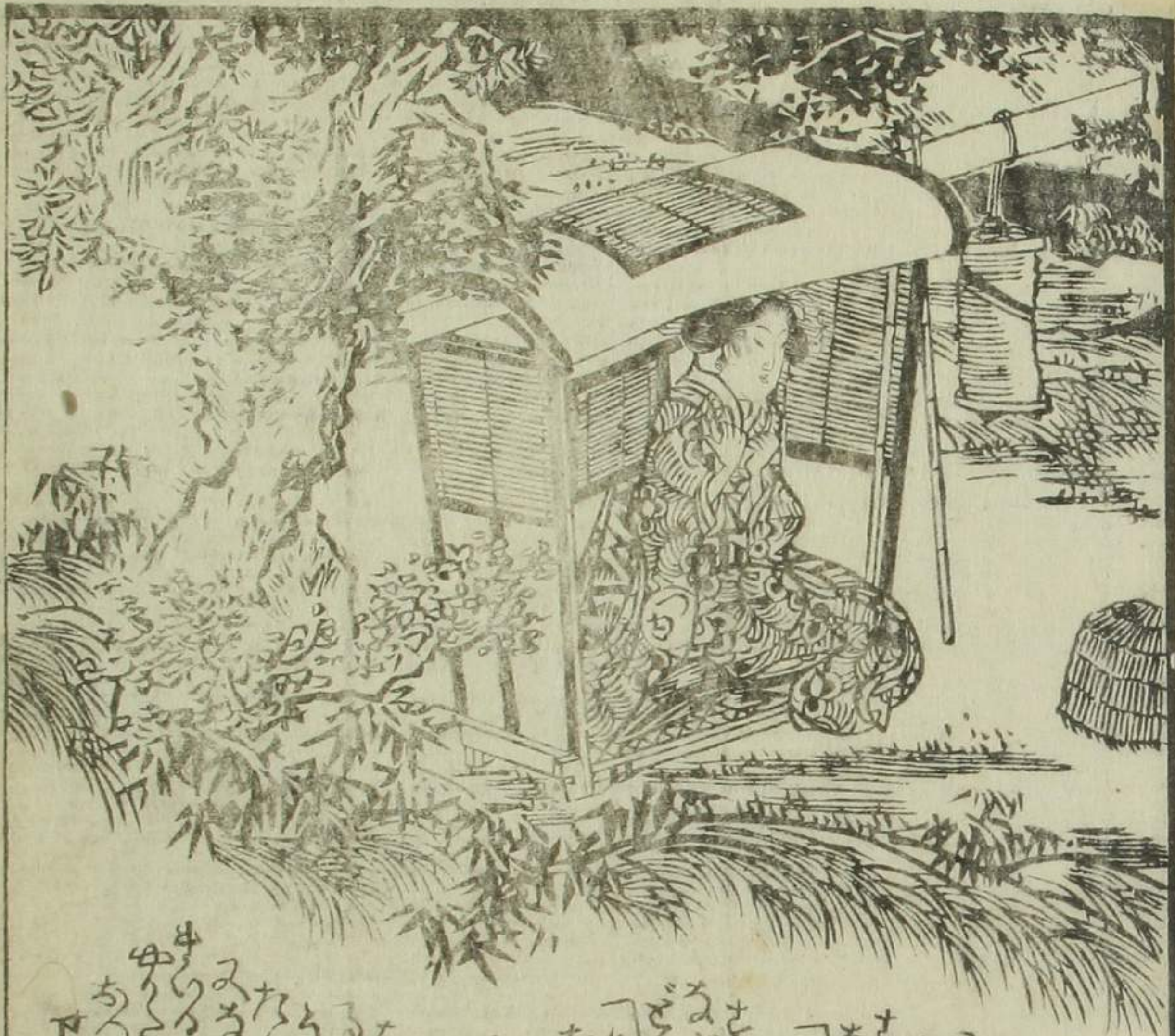
吹へて
 けしき
 つたか
 ようで
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ

あつちの村にすすむ
 わらふおせんぎのむね
 むねはくつてゐる
 村あささへ入らぬが
 ぞつて入らぬ
 身どもがらぬ
 由く中のぞつてゐる
 かいといひさして
 けしきをいふ
 よも九つとある
 中だつたか
 さつていふ
 うらむ
 よのむねをいふ
 たらひのむねをいふ
 それとつた
 さつていふ
 みつたか
 ようでつた
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ



ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり
 ぶつて
 ろり

吹へて
 けしき
 つたか
 ようで
 ねらふ
 つたか
 そのか
 べくめ



をしもさのせんより
 のうげよりうらひあは
 ないともそうあや井氏
 ちやんかどなるとせんが
 どれんてびつらり「や
 きでんかすはちりどの
 せぐをゆんしけとこ
 「あやのゆかあ井氏
 「あやのゆかあ井氏
 さどりのあやのゆかあ井氏
 どうぞいのちかたさけ
 「されをささるその命を
 ちをなんともををつせ
 うのもる「いまのまけ
 あれあてさうしきで中
 かをさめめめをさうして
 ちくせんするささるもの
 ちかちかありのささるもの
 うをいさししものささるもの
 ちかあんのささるもの
 又させん「いささあてんか
 牛のゆかあ井氏をささるもの
 ちかあんのささるもの
 ちかあんのささるもの
 せんささるもの



「せんがあらりあ
 このれい金ををりあひ
 あくをさつてちかあ
 かしさるうをささるもの
 風をささるもの
 せんささるもの
 あつものをささるもの
 さげてあらべあひい
 があやのゆかあ井氏
 これすでありしかくこの
 せんかあをささるもの
 あくこのうをささるもの
 さちあてさうあひ
 どうこのうをささるもの
 うちをささるもの
 さちあてさうあひ
 どうこのうをささるもの
 うちをささるもの

五のまき



あんなにきれいな装束
なになにをさげや
きんぎょや

おんね
おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

あんなにきれいな装束
なになにをさげや
きんぎょや

おんね
おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

あんなにきれいな装束
なになにをさげや
きんぎょや

おんね
おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね



作者曰

あんなにきれいな装束
なになにをさげや
きんぎょや

おんね
おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

あんなにきれいな装束
なになにをさげや
きんぎょや

おんね
おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね

おんね
おんね





うぐいさの谷の戸
あゝあゝ
鍵 腰おねらむ

あつてもやせうくさつてつれなく
ふらふらつていふのあつてつれなく
まごころひわんこころあつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく



「こころえすゝまかゝるん
いふのなごころあつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく



あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく

あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく
あつてもやせうくさつてつれなく



あつて男を
うすく見せ
らるる女
男の子を
あつて男を
うすく見せ
らるる女
男の子を

おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす

八ツの
チヨシ
あつて男を
うすく見せ
らるる女
男の子を
あつて男を
うすく見せ
らるる女
男の子を



おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす

おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす

おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす
おろす

六のまのき大尾



ふらふらと一いんとのやの女あはつてをたててはへろしや
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの



あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

作者曰 かつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あつたあつたのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

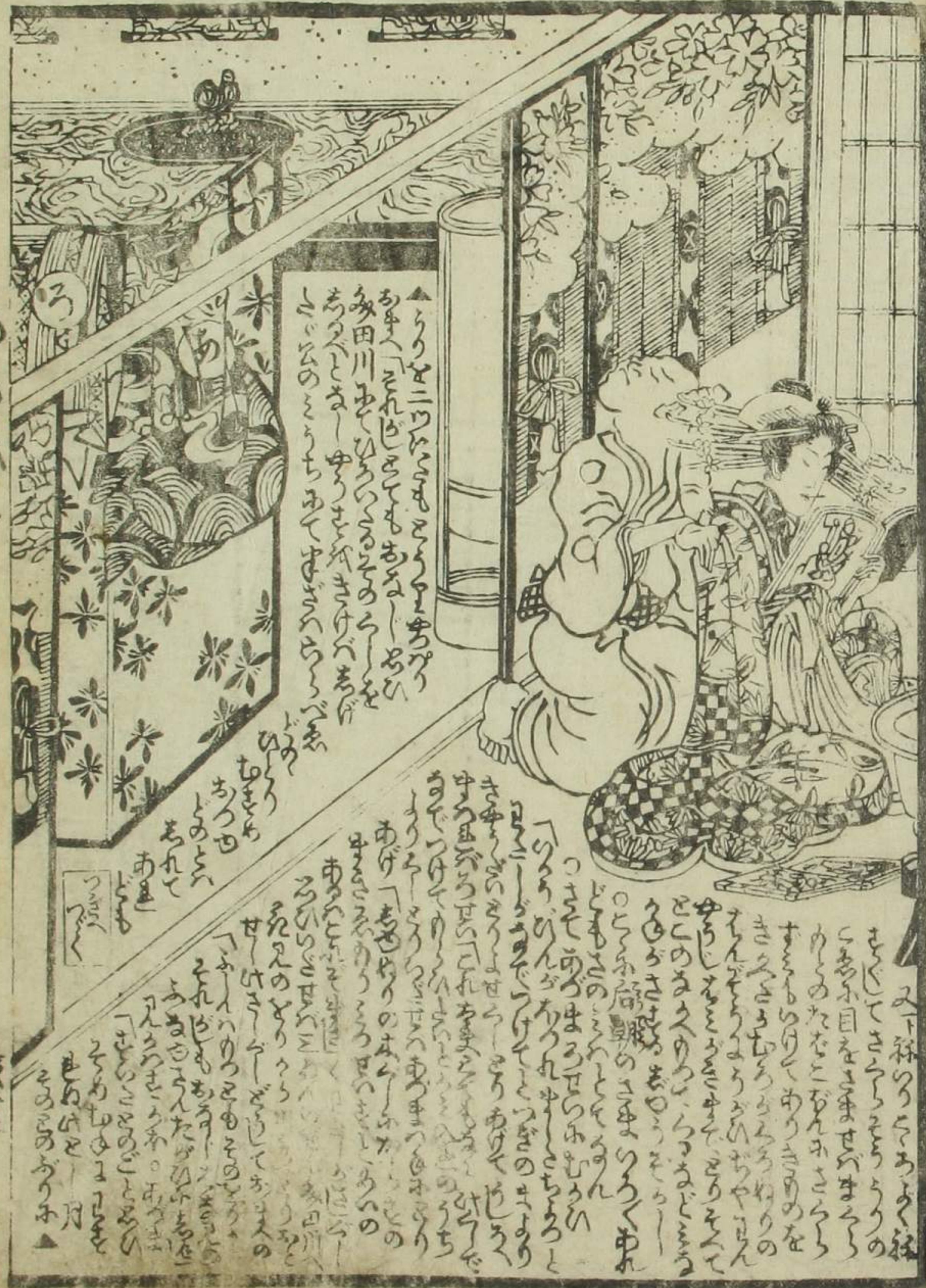


だせむお符がつのあはれ
 まうけさうひのちあう
 そのとま女房がわあ
 ささるくはくいさ
 甘うとささるくはくいさ
 りの「モ」あうとさんがあう
 でさうまきをかてあう
 めのあうまきをかてあう
 だのその目うらうら
 せしあうてのちま
 目あさのあんまき
 ひあうもんそまき
 きんあうのさま
 まうらうらあうま
 さの正めんらうの
 りんらうらあうま
 せしあうてのちま
 こらうらあうま
 ちあうらあうま
 らあうらあうま
 けくらのあうま
 りんらうらあうま
 うらあうま
 女房のあうま
 あうま
 まあうま
 らあうま
 まあうま
 らあうま



けくらのあうま
 りんらうらあうま
 うらあうま
 さの正めんらうの
 りんらうらあうま
 せしあうてのちま
 こらうらあうま
 ちあうらあうま
 らあうらあうま
 けくらのあうま
 りんらうらあうま
 うらあうま
 女房のあうま
 あうま
 まあうま
 らあうま
 まあうま
 らあうま





Handwritten vertical text on the right margin of the right page.

Small handwritten text at the bottom left of the left page.



乙亥新目録雙鶴堂梓行



ついでかゝるわのけのきよき
あゝあんのこけのけのけのけ
わのけのけのけのけのけのけ
○かえりてこゝろのこゝろ
竹のつえのこゝろのこゝろ
あゝあんのけのけのけのけ
ちかひのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ

山東京山作
勝川春亭画
勝川春亭画
勝川春亭画

○かえりてこゝろのこゝろ
竹のつえのこゝろのこゝろ
あゝあんのけのけのけのけ
ちかひのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ
ついでかゝるわのけのけのけ
きんぎょのけのけのけのけ

久一路無情 女達磨由来 全七冊
歌川豊国画

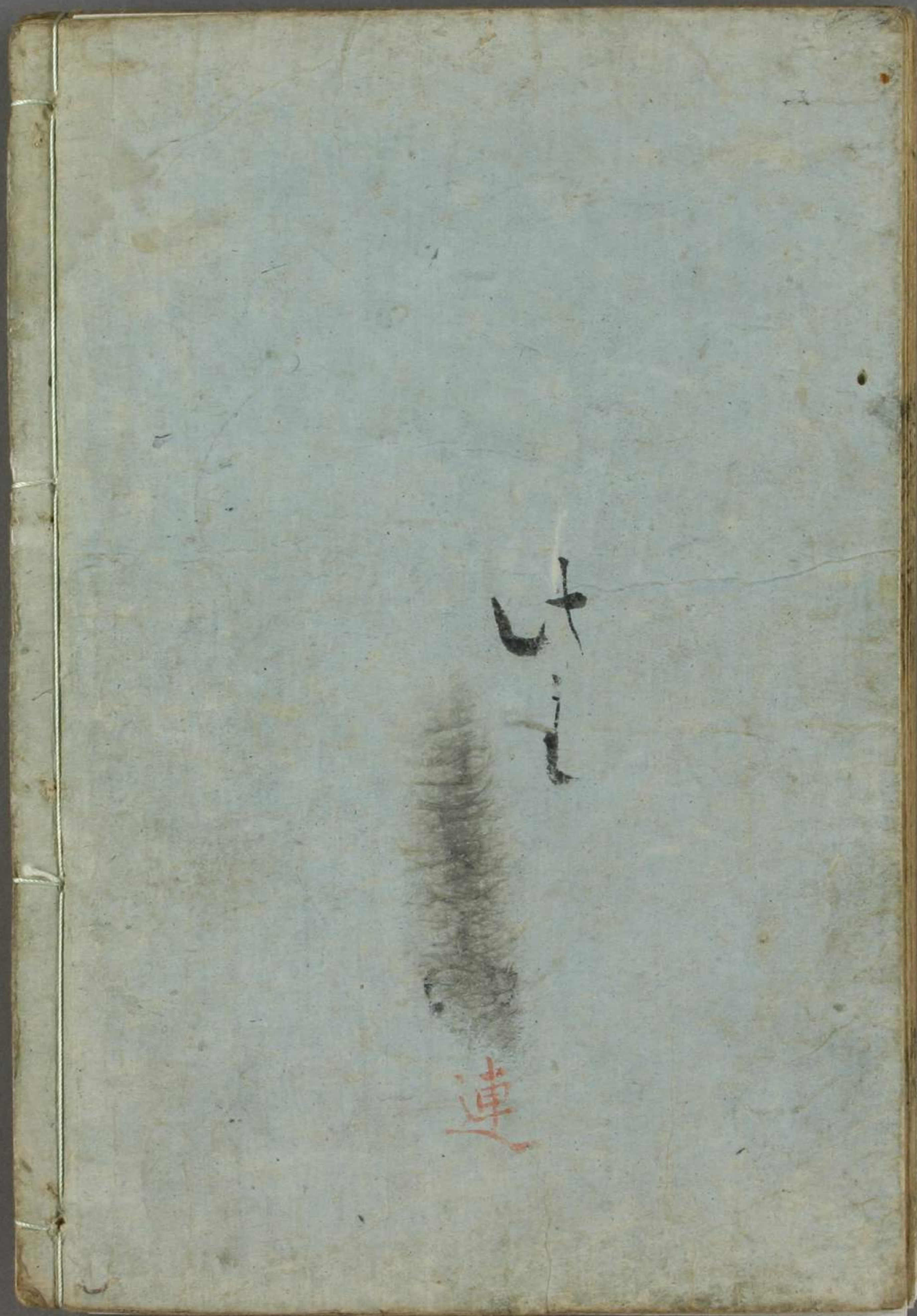
盧生 浮世夢助魂膽枕 全三冊
式亭三馬作
歌川国直画

見国小女郎 復讐朝顔鏡 全六冊
葛葉散人正二作
勝川春亭画

昔今猿乃人真似 全三冊
関亭傳笑作
歌川国丸画

三海 兩個傘屋雨濡記 全六冊
緑亭可山作
歌川美丸画

わのけのけのけのけのけのけ
花競化粧櫻 全六冊
歌川国信画



七
十

連